

# 令和5年度 学校評価

浜田市立旭中学校

## 1 自己評価

### (1) 実施について

○調査方法 Microsoft Forms を活用した評価調査

○回答期間

・生徒 令和6年1月22日(月)(学校にて一斉に)

・保護者 令和6年1月15日(月)～1月31日(水)

・教職員 令和6年1月10日(水)～1月26日(金)

○分析期間 2月上旬(職員会議等)

○結果公表 3月12日(火) メール配信システムすぐーるで周知し、Web 公開

### (2) 調査結果

○生徒・保護者・教職員の回答結果・・・資料1

### (3) 結果分析・考察

○生徒会活動は不登校や問題行動の未然防止につながっているので継続していく。新生徒会も公約で述べている「自学 show time」についてはさらによい活動になるように支援していく。またこまめな情報共有を続けつつ、教育相談については質問項目等の改善をしていく。

○知識構成型ジグソー法など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組により、生徒や保護者の肯定的評価につながっており、全国学調、県学調とも成果が見られる。

○人が足りない中、一日に同じ教科が2時間あることが多々あったが、生徒がよく頑張った。2教科持つ教員が3人いることで、時間割編成が難しかったが、自習が少なかったのは良かった。また知的CSの授業については、子どもにあった授業が展開されている。

○特別支援に関する研修が充実したとは言い難かった。ニーズは高いので、来年度以降時間をとって全教職員でやっていく必要がある。

○すぐーるでの欠席連絡や保護者文書配信、留守番電話の対応により、教員の負担軽減や印刷費の削減につながった。

## 2 学校関係者評価

### (1) 実施について

○ 令和6年2月20日(火)に学校評議員会を開催。

○ 管理職より本年度の教育活動、自己評価の説明をし、学校評議員の上野様、岡本様、文田様よりご意見をいただく。

## (2) ご意見・評価

- 生徒が回答したことについて、大人がちゃんと対応してあげたほうが良い。現実的に難しいこともあると思うが、中学生は理解できると思うので、子どもの意見を大切にフォードバックする機会を設けてほしい。
- 文化祭で総合的な学習の時間の発表を聞いて、大人が新たな気づきを得る部分もあった。子どもの学びが地域の実態に合ってきていると感じる。生徒は地域のイベントでも積極的に動いたり自分の意見を言ったりすることができる。このような部分を、学校、保護者、地域も認め、大切にしていきたい。
- 3年生が1年生の時に作成したパンフレットを英語版に発展させたことは、地域でもとても評判が良い。
- 制服について、選択肢を増やすのは良いことである。地域にその意義などについて周知することは必要である。
- まちセンや自治会、高齢者サロンなど、地域をもっと利用してほしい。先生たちの負担を軽減するためにできることを協力したいので、遠慮せずと言ってほしい。
- 特別支援教育について、先生方の研修は大切である。場合によっては先生の発言で傷つくこともある。その子の良いところを伸ばせるような支援をお願いしたい。特別支援学級の親は、通常学級の親よりも不安が大きいはず。来年度全教職員で研修をすることは、やる気が感じられてうれしい。
- 部活動について、頑張っている子どもが悔しい思いをしたという話を保護者から聞いた。親としては頑張りたい子どもの気持ちを理解してもらいたいのだと思う。移行期で難しい面もあるだろうが、子どもたちの頑張りを応援していきたい。
- 地域の大きな資源である島根あさひ社会復帰促進センターを活用していくことが引き続き大切である。中学入学時に転出しないためにも、旭中の良さを積極的に伝えていきたい。

## 3 次年度へ向けて

- 特別支援教育にかかる研修を充実させ、全教職員で、一人一人にあった、きめ細やかな支援につなげていく。
- 生徒にどんな力をつけさせたいか、学校として保護者に説明していくことが必要。各教科等でも、方針を示していく必要がある。
- 生徒が自己有用感を感じるような取組を継続しつつ、振り返りを工夫するなどして生徒自身が実感するような仕掛けをしていく必要がある。
- 行事の評価をして、ありようを検討していく必要がある。特に文化祭については早急に検討して、学習成果の発表の場としてより充実させるとともに、生徒及び教職員の負担軽減につなげていく。
- 働きやすい職場にするために、できることは何でも取り組んでいく必要がある。ただ学校でできることは限られているので、引き続き市教委との連携が必要である。